



▲また台数の少なくなったNP-4だが、ニューエントリーの家本欣明が、ここでも活躍を見せ、芳賀賢司を従える

NP-4/NP-2クラス

家本と横田、それぞれ圧勝に！

NP-1が15台の出走と再び勢いを取り戻してきたのに対し、NP-4は今回出走はたったの3台。いつものように再び混走レースとなった。

だが、NP-4の3人は実力迫伸。その差は0.5秒しかない。家本欣明-芳賀賢司-川崎清司の順できれいなスタートを切るが、すぐに2位が入れ替わった。あたかも緋隊走行のようにラップを重ねていたものの、5周目に芳賀のハーフスピンでその均衡は破れる……。

レースも中盤に入ると、周回遅れとなるNP-1勢に行手をはばまれ、思うように走れない。特に5台によるNP-1の2位争いには家本も川崎も抜くのにかなり手こずっていたよう。その間に芳賀も追いついてきてはいたが、トップ2台に追いつくには、周回数が足りなかった。この2人がNP-1の2位集団をかわすと、今度はトップをかわさなくてはならないが、川崎はこれに大きく手間どり、家本にリードを広げられてしまう。しかも14周目にはエンジントラブルでスピードダウン、ピットでリタイアする破目に。家本は芳賀に21秒もの大差をつけて、優勝をさらった。

一方、NP-4とのあまりの速度差のため、影が薄くなりがちのNP-1だが、今回に限っては予選から圧倒的な速さを見せていた横田剛が、1周目から独走で、速さを見せてくれた。

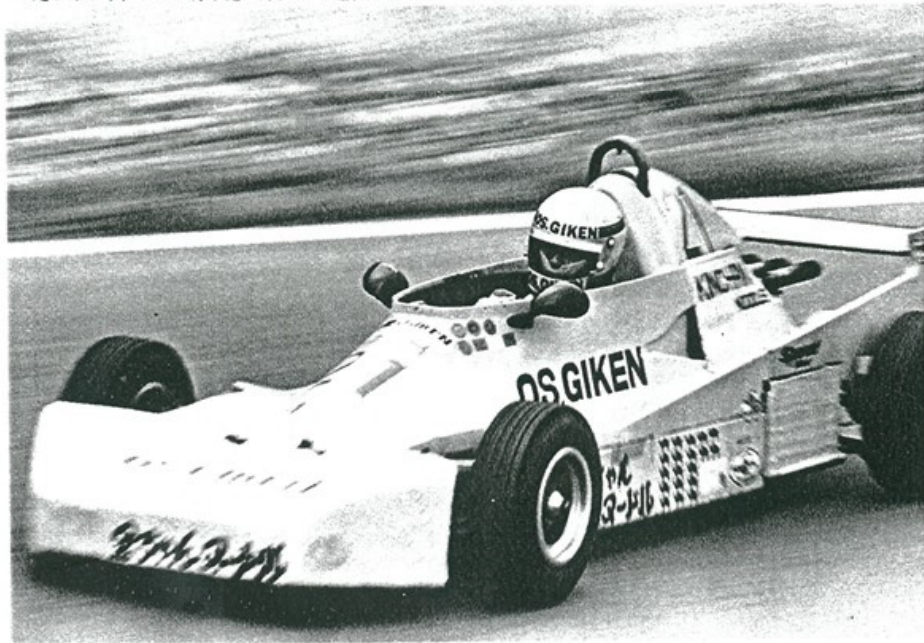
しかし、2位以下は全くの困子状態で伊東秀芳、

藤本裕之、高木正弘、山本圭二、植田恭弘の5台でデッドヒート。このうち伊東が最終コーナーでスピンし、同時に藤本がペースを上げ始めたものの、もはやトップの横田は視界になかった……。

FL-Bクラス

ついに青木が20勝目を達成！

▼足かけ3年、ついに青木健一郎、FL-B通算20勝目をマークする



▲NP-1は最初から横田剛の逃げ切りへ



▲大激戦の2位争いは藤本裕之が制す

全体にタイムが伸びなかったFL-B。気温が低い割には路面温度はそこそこあり、予選は好タイムが期待されたが、スズキの2ストエンジンは冷え症なのか、夏場のほうが調子は良いという。

さて、レースになると、今回もまたもや青木健一郎。いつものように1周目からのぶっちぎりで、何の不安もないかのような走り、15周を余裕で走り切った。2位争いは前田照文と中西克良の間で展開されたが、その差は広がりもせず、縮まり